

町内畑

小針小学校 5年 田中 美幸

新潟市は農業がさかんだと、社会科の学習で習いました。そこで、町内畑を作れるといいなと思いました。町内畑とは、町内の人たちで、子どもからお年よりまで、仲よく世話をし、とれた野菜をみんなで分けて、食べる畑です。でもよく考えてみると、畑の水やりの費用が大変だということに気がつきました。そして、畑の水やりをかんたんに、むだなくできる方法はないかと考えました。

ふるは、毎日入るうえに、大量の水を使うので、なんとかならないかと毎日思っていました。そして、次のようなシステムを思いつきました。水道管やガス管のように、ふる管というものを作ります。ふる管は畑に送ります。道路の所ではなく、畑の所だけ、ふる管に小さなあなをたくさんあけ、畑に水をやれるようにします。そのふる管に一枚のふたをつけ、畑の水やりが終わると、そのふたがしまるようにします。

ある本で、米のとぎ汁は環境をよごすが、栄養があるので植物に水をやるといいとかいてあったので、米のとぎ汁もふる管と同じシステムで作るということを思いつきました。

私の家では、祝日などで、生ごみがたまるとくさくなりこまっています。なので、台所に「生ごみ入れ」を取りつけ、ふる管のように、生ごみ管を作り、畑に送り、たい肥にするシステムを思いつきました。けれど、生ごみ管はすぐにつまってしまうと思うので、ふる管をと中に取りつけ、流すようにすれば、つまらないと思います。

その他の畑の世話は、町内で順番を決め、きちんとやれば、野菜も大きく育ち、みんなで仲よく、楽しくやれると思います。このシステムのように、使ったら捨てるということではなく、じゅんかん型にすれば、環境にもやさしくなると思います。ペットボトルやトレイなどは、リサイクルすれば、ごみの量もぐんと減るのではないのでしょうか。

自分たちが育てることによって、好ききらいがなくなったりすると思います。私も、4年生の授業で大根を育て、それから、大根の葉を食べるようになりました。給食で残ることが多い野菜も、その他の残飯も、少なくなるのではないのでしょうか。

国語の教科書に、海外には、ごみをあまり出さない国があると書いてありました。それに、遊び道具を作り出すときの子どもたちの目には、私たちがわすれてしまったかがやきがあるんだそうです。私たちも、わすれてしまったかがやきを早くとりもどしたいですね。

私は、このような新潟市ができれば、新潟市の農業が、もっと発てんし、多くの観光客がおとずれるようになると思います。